記念事業の概要

基　本　理　念

市制施行 50 周年という大きな節目を、全市民を挙げて祝うとともに、本市が積み重ねてきた歴史や先人たちの業績などを見つめ直し、あらためて、このまちに誇りを持ち、まちを愛する心をさらに高める機会とします。

そして、市民をはじめ、地域、企業、各種団体、行政等、本市に関わる様々な主体が一つとなり、震災前にも増して活力と創造力に満ち溢れ、光り輝く本市の将来を展望し、更なる飛躍・発展に向かい躍動する契機とするため、市制施行 50 周年記念事業を実施します。

実　施　方　針

1. 市民をはじめ様々な主体が連携し、交流を深め、人と人との絆を強める。
2. 地域の特色・歴史や文化を生かしながら、まちのちからをさらに高める。
3. 郷土・故郷への誇りと愛着心を高め、その思いを未来へ引き継ぐ。
4. 次世代を担う子どもたちの夢や希望を育む。
5. 本市の魅力や明るく元気な姿を国内外に向けて発信・アピールする。

実　施　期　間

平成 28 年 4 月 1 日　～　平成 29 年 3 月 31 日

事　業　構　成

市制施行 50 周年記念事業は、記念式典のほか、50 周年にちなみ「50 の事業」で構築することとし、基本方針に定めた実施方針に基づく次のキーワードで、各事業に最も関連性の高いテーマごとに分類し、事業を行うこととしました。

シンボルフレーズ・シンボルマーク

市民をはじめとする多くの方々に市制施行 50 周年に親しみをもっていただくとともに、市内外への情報発信・ＰＲを効果的に行うため、記念事業の実施期間において使用する「シンボルフレーズ」と「シンボルマーク」をそれぞれ公募しました。

シンボルフレーズについては 237 作品、シンボルマークについては 212 作品の応募をいただき、厳正なる審査のうえ最優秀作品を選考しました。

その後、補作を経て、シンボルフレーズ及びシンボルマークとして決定し、記念事業や広報紙、市ホームページのほか、ＰＲグッズ等に広く活用しました。

シンボルフレーズ

いわき　ステキ　半世紀

最優秀賞：木下はるみさん（いわき市永崎在住）

シンボルマーク

［デザインのコンセプト］

本市に存在する様々なステキなものたちが、市の魅力を発信していくイメージをシンボル化し、本市の多様性を表現するとともに、市民の心の暖かさと海、山、そして太陽（サンシャイン）といった豊かな自然と温暖な気候に恵まれた本市の特長を色で表現しています。

中央の 50 の文字は 14 のパーツで構成されており、本市が 14 市町村の大同合併により誕生したことを表しています。

最優秀賞：岩谷洋平さん（いわき市泉町在住）

記念式典

■**開 催 日**　平成 28 年 10 月 1 日
■**会　　場**　いわき芸術文化交流館　大ホール
■**参加人数**　約 1,000 人

市制施行から 50 年を迎えた平成 28 年 10 月 1 日に、「いわき市市制施行 50 周年記念式典」を盛大に開催しました。

記念式典において清水敏男市長は、石炭産業の終焉など幾多の試練に直面しながらも、南東北の拠点都市として着実な発展を遂げてきたいわきの歩みを振り返りながら、それを支えてきた多くの方々に敬意と感謝の意を表すとともに、東日本大震災からの復興を果たし、更なる 50 年に向けて、だれもが住んで良かった、住み続けたいと思える魅力あるまちづくりに、全力で取り組んでいく決意をあらためて表明しました。

記念式典では、市の振興発展に尽力・貢献された市外在住の方々や、歴代市長、歴代市議会議長を表彰しました。

また、記念アトラクションとして、市の半世紀の歩みを振り返る映像の上映や、市内の高等学校で構成する吹奏楽団と市内各合唱団体の合同による「いわき市歌」の演奏等が式典を盛り上げ、最後に行われた市内の小学生・中学生・高校生の合同による未来に向けたメッセージでは、会場が大きな感動に包まれました。

■式 次 第

1　開　　式
2　国 歌 斉 唱
3　市民憲章唱和
4　式　　辞
　いわき市長　　清水　敏男
5　祝　　辞
　・福島県知事　　内堀　雅雄　様
　・延岡市長　　首藤　正治　様
　・タウンズビル市議会議員　　アンマリー・グリーニー　様
　・カウアイ郡長　　バーナード・P・カバーロ・Jr　様
　・福島県議会議長　　杉山　純一　様
　・衆議院議員　　吉野　正芳　様
6　来 賓 紹 介
7　特 別 表 彰
　・市外在住者表彰
　・歴代市長及び歴代市議会議長表彰
8　受賞者代表挨拶
9　記念アトラクション
　・映像上映 ～いわき半世紀のあゆみ～
　・市制施行 50 周年記念演奏
　・いわきの未来に向けたメッセージ
10　閉　　式

市長式辞

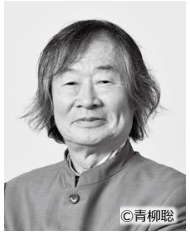
祝辞（福島県知事）

特別表彰

受賞者代表挨拶

市制施行 50 周年記念特別表彰者　＝ 敬称略 ＝

■　市外在住者表彰



○小林　研一郎

本市出身であり、日本を代表する世界的な指揮者として活躍し、音楽を通じて本市の文化振興に貢献されています。

○童門　冬二

平成９年のいわきヒューマンカレッジ（市民大学）開学当初から学長として尽力し、本市の生涯学習の振興と文化の向上に貢献されています。

○前川　盛太郎

昭和 61 年の秋田県由利郡岩城町（現由利本荘市）との親子都市協定締結に尽力し、両市の絆を深めるために貢献されています。

○スーザン・ロバーツ

平成３年のオーストラリア・タウンズビル市との国際姉妹都市協定締結に尽力し、国際交流の理解促進や異文化体験の振興などに貢献されています。

■　歴代市長

○岩城　光英（第七・八代市長）
○四家　啓助（第九・十代市長）
○櫛田　一男（第十一代市長）
○渡辺　敬夫（第十二代市長）

■　歴代市議会議長

○若松　昭雄（第九代市議会議長）
○樫村　弘　（第十代市議会議長）
○藁谷　利男（第十二代市議会議長）
○矢吹　貢一（第十三代市議会議長）
○蛭田　克　（第十四代市議会議長）
○根本　茂　（第十五代市議会議長）

市制施行 50 周年記念演奏

■　出演

〇福島県合唱連盟いわき支部加盟団体及び市役所混声合唱団

〇福島県立磐城高等学校、平商業高等学校、湯本高等学校

■　曲目

【合唱】

・夜明けから日暮れまで（作詞：和合亮一/作曲：信長貴富）

・大地讃頌（作詞：大木惇夫/作曲：佐藤眞）

【吹奏楽】

・祝典のための音楽（作曲：フィリップ・スパーク）

・アンダンテ・フェスティーヴォ（作曲：ジャン・シベリウス）

・戴冠式行進曲「宝玉と王の杖」（作曲：ウィリアム・ウォルトン）

【合同演奏】

・いわき市歌（作詞：乗田まさみ/作曲：小林研一郎）

いわきの未来に向けたメッセージ

■　出演　＝ 敬称略 ＝

大森 凪（いわき光洋高等学校２年生）、渡辺 真由（磐城高等学校２年生）
石井 啄翔（平第二中学校３年生）、草野 凌（大野中学校３年生）、
佐藤 一貴（平第一中学校３年生）、鈴木 雄大（好間中学校３年生）、
真柄 壮一郎（中央台北中学校３年生）
内田 凛（平第二小学校６年生）、國井 杏夏（御厩小学校６年生）

■　メッセージの内容

【小学生テーマ：こうなってほしい いわき】

いわき、若い町、伸びゆく町。
いわき、海、山、緑、自然あふれる町。
いわき、家族、友達、大好きな人たちが住む町。
もっとこうなってほしい いわき。
私は、本を読むのが大好き。
もっと素敵な本に出会いたい。
ロボットが、私におすすめの本を紹介してくれるようになったら面白い。
いわきを代表する観光地、ハワイアンズ。フラおじさんだけじゃなく、ヤシの木ロードや、ハイビスカスがいっぱい咲く、南国感満載のいわきになってほしい。
もっとこうなってほしいいわき。
小学生、中学生、高校生、みんなが一緒に遊べるような、施設を建ててほしい。おじいちゃん、おばあちゃんと、世代を超えて楽しく交流できるように、老人ホームの近くに、保育園や幼稚園を建ててほしい。そうすれば、近所の人達と交流が深まって、安心して暮らせるいわきになると思う。
これからは、国際化社会。東京オリンピックもやってくる。海外の友達と交流する機会がほしい。お互いの国について語り、いわき踊りを一緒に踊れたら楽しい。
いわきの人達が、海外旅行に行ったり、海外の人達が、いわきに来たりするためには、空港があったら便利。だから、いわき空港を作ってほしい。
ひとと、
もの。
私たちは、いわきが大好き。
だから、未来に向かって変わり続けていってほしい。

【中学生テーマ：変わらないでほしい いわき】

今のいわきはたくさんの自然に恵まれています。夏は涼しく、冬暖かい。そんないわきの気候がつくりだす自然は、山、川、海はもちろんのこと、いたるところで四季折々のいわきの風景を美しく彩ってくれます。例えば、小名浜の三崎公

園。一面の青空の下、緑の芝生の上では、木々のざわめきとともに潮風が、訪れる人をさわやかに包み込みます。例えば、平の新川。市役所やアリオスの裏にある土手の桜並木は、毎年春になると春の便りを届けてくれます。土手に咲く菜の花とのコントラストは最高です。

いわきにはそんな豊かな自然を生かした観光資源があります。いわき沖周辺には暖流と寒流が会う、「潮目」があり、豊富な生き物たちが集まり、珍しい魚にも出会うことができます。東北屈指の水族館、アクアマリンふくしまでは、いわきの海を再現した潮目の大水槽が人気です。また、いわきには湯本温泉があります。温泉を利用したハワイアンズはいわきを代表する観光施設のひとつです。フラガールやファイヤーダンサーなどのショーは、設立当初から変わらぬ迫力があります。

このようにいわきにはたくさんの魅力があり、そして、欠けてはならないものがあります。それは先人からの文化や知恵です。豊かな自然、それを生かした観光資源。長い年月をかけ、多くのものが先人達の手により作り出され、受け継がれてきました。先祖を想い、およそ 400 年もの間、踊り継がれてきたじゃんがらや、市内の各地区で行われる行事、人と人との距離を近づける愛嬌のある方言などもまたいわきの愛する文化です。

1966 年から発展し続け、50 周年という節目の年を迎えたいわき市。

これからも自然と暖かみにあふれたいわきを守り、伝え続けていくべきです。

いわきの魅力と、それを築き上げてきた歴史が変わらないでいてほしいと強く願います。

【高校生テーマ:いわきの今ある課題をどのように解決し、未来へつなげていくか】

小学生が思い描く、「こうなってほしいいわき」、大きな夢と希望が伝わってきます。

中学生が願う、「変わらないでほしいいわき」、そこには地元に対する強い想いがあります。

50 周年という節目を迎えた今、いわきのこれからの発展を、全ての年代が願っています。今回の発表は、その決意表明とも言えるでしょう。しかし、いわき市には問題が数多くあります。

東日本大震災からの風評被害。5 年たった今でも、見えない形で農家の方々の苦しみは続いています。

津波によって流された街並みは元に戻りつつあります。ですが、建物の復旧は進んでも、心の復興は完全に終わったとは言い切れません。そして、これらの問題を解決していく中で、私たちは、また新たな課題を見つけました。

それが、地元いわきに対する興味関心の薄れです。自分のふるさとを想う気持ちが年々薄くなっています。いわき市の魅力は、こんなにもまだまだ沢山あるはずなのに、どうして同世代の同級生たちは知ろうとしないのでしょうか。

「どうせ自分は関係ないから」今の若者の地元に対する声です。いわき市に魅力がないのではなく、若者に地元を知ろうという気持ちが無いのです。過疎化が進んでいるのは、若者の地元に対する無関心さが関係しているのです。

いわきに戻ってきたい！そう思えるようないわき市を作っていくためには、これらの問題を解決していかなければなりません。しかし、私たちが夢を叶え、進んでいくだけでは解決できません。若者だけが大人だけが変わってもいわきは変わりません。大人から子ども、老若男女問わず、改めて見つめ直し、みんなで考えて、向き合っていく、そして先ずは自分の地元いわきを知ることから。それが解決への第一歩ではないでしょうか。

あと 100 年後のいわきがもっともっと輝いていけるように。

小学生、中学生、高校生全員で、未来に向けて、決意表明をしたいと思います。

どんなときも一歩ずつ
手を取り合って　いわきとともに
未来に向かって歩んでいこう